

平成30年度 西都銀上学園 学校評価

【自己評価:4段階評価】4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

評価項目	評価の観点	方策・指導の手立て	学校評価				関係者評価	平均	反省・対策
			職員	児童生徒	保護者	評議員			
1 基礎学力の 「やる気」 の確実な定着と 学力向上	学習指導の工夫・改善	児童生徒の学習状況と特性を把握し、個に応じた学習指導の工夫・改善を図ることができたか。	3.4	3.7	3.5			<ul style="list-style-type: none"> ・対外テストや定期テストの分析を進め、個に応じた指導として、練習プリントや家庭学習の課題を設定し取り組ませたことで、個の学力を伸ばすことにつながった。 ・教科指導において板書計画をもとにした授業展開を構築し「めあて」や「まとめ」をしっかりと位置付けたことで、指導の充実と学力向上のための効果的な授業を展開することができた。 ・シロミックスタイム(朝の活動時間)を活用して、児童生徒の教科等における基礎基本の復習とともに、応用、発展問題等に取り組ませ、児童の学力向上につなぐ取組を行うことができた。 ・少人数における学び合いについても、今後さらに工夫と改善を行う必要がある。 	
	少人数指導の充実と家庭学習の習慣化	小中学校の教諭による授業協力など、児童生徒の発達段階に応じた少人数指導の充実を図ると共に、家庭学習の習慣化に努めることができたか。	2.9	3.4	2.9			<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭の乗り入れ授業は複式解消につながっているだけでなく、より専門的な指導となっており、児童の学力向上に大いに役立っている。 ・「家庭学習の手引き」を今年度も配付し、学級担任が中心となって保護者と連絡を取りながら、家庭での学習時間や自宅学習ノートの内容など効果的な学習指導を行うことができた。 ・特に山村留學生については、家庭学習の取組が留学終了後も継続できるように、その大切さについての理解を深める指導を継続していく必要がある。 	
	学習環境の充実と読書活動の推進	児童生徒の学習意欲を高めるような教室内外の学習環境の整備・充実を努めるとともに、積極的に読書活動を推進することができたか。	2.9	3.2	3.1			<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習したいものや作成したものを教室や廊下に掲示し、教育環境の整備に努めることができた。 ・プレゼンテーションソフトやICT機器を活用した授業を展開したことが、児童生徒の興味関心を高めたり、集中して授業に臨む態度を育てることにつながった。 ・本校の児童生徒は、よく読書に親しんでいる。今年度は読書活動が充実するための図書室のITC整備がなされた。今後これを効果的に活用していきたい。 	
2 豊かな 「心」 の生活 に成習 慣の定着と	基本的な生活習慣の確立	「当たり前のこと3箇条」を中心とした指導を充実させ、基本的な生活習慣を身に付けさせることができたか。基本的な生活習慣の確立について、家庭と協力しながら進めることができたか。	3.3	3.3	3.7			<ul style="list-style-type: none"> ・「当たり前のこと3箇条」を中心とした指導を充実させ、基本的な生活習慣を身に付けさせることができた。 ・生活の記録や日記等を活用し、児童生徒の実態を把握するとともに保護者(里親・実親)と協力しながら、連携して指導の徹底を図る。 	
	将来について考え温かい人間関係を築く	児童生徒一人一人が、将来のことを考えるとともに、思いやりや感謝の気持ちを育て、教師と児童生徒あるいは児童生徒相互の心や温かい人間関係の醸成を図ることができたか。	3.0	3.2	3.3			<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育と学校の行事等の関連を明確にすることで系統的・計画的な指導の充実を図る。 ・道徳の教科化に向けての整備を進める。 ・学校行事や異学年交流活動を通して、人権を尊重する態度や他者を思いやる心を育む。 	
	体験学習と奉仕的活動の推進	伝統文化や地域素材を取り入れた体験的学習や奉仕的学習を推進し、豊かな心の育成を図ることができたか。	3.3	3.7	3.9			<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教室や銀鏡神楽鑑賞など地域の方の協力の得て、充実した体験活動を行うことができた。 ・環境教室、農業体験学習など豊かな自然を活かした活動を行うことができた。 ・憩いの家訪問や神社の清掃活動などを通して、福祉やボランティアの大切さを学ばせることができた。 ・今後も山村留學実行委員会や山がっこ銀上との連携を深め、体験活動を充実させていきたい。 	
3 体健 「力」 元向 「心」 上全 教育 の推 進と	生活のリズムの確立	生活リズムを整えさせ、児童一人一人の健康状態の把握に努めることができたか。	2.9	3.4	3.3			<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」など日常の規則正しい生活を推進する。 ・健康観察や生活記録・家庭連絡帳を活用する。 	
	食に関する指導の充実と心身の健康維持	食育の充実と給食指導の充実を努めることができたか。	3.2	3.6	3.3			<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による食育授業を給食指導に生かす。 ・弁当の日を実施して、食に関する意識を高める。 	
	安全教育の充実	部活動の充実や教育相談の実施を通して心身の健康を維持することができたか。	3.0	3.7	3.7			<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に根気強く取り組む態度を育成する。 ・児童生徒の実態把握や教育相談の充実を図る。 	
4 家小 「中」 一貫 「地」 域教 育の 推 進と 携	教師の指導力向上	施設一体型の特色を生かした学習指導や生徒指導における小中連携について共通理解共通実践を図るとともに、教師の指導力向上のために校内研修を充実させたか。	3.6					<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の4つのチェックポイントを意識した校内研究の充実を図る。 ・校内研修で宮崎大学や西都市教育委員会の支援を仰ぎながら一人一人の授業力の向上を図る。 ・小中一貫校ならではのよさを生かしながら、教育課程の編成を工夫する。 	
	学校教育活動の情報発信(説明責任)	保護者・地域に向けて、学校のさまざまな教育活動の情報を発信することができたか。	3.2		3.1			<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針や課題についての積極的な説明を行う。 ・学校便りやHPによる情報提供の充実を図る。 ・コミュニケーションの充実を図る。 	
	山村留學実行委員会等との連携協力	山村留學実行委員会や保護者(実親、里親)、地域との連携・協力体制をつくることができたか。	3.1		3.4			<ul style="list-style-type: none"> ・山村留學実行委員会主催の行事に協力する。 ・地域組織「山がっこ銀上」等の行事に協力する。 ・留學生の受け入れに関わり協力体制をつくる。 	
								<ul style="list-style-type: none"> ・4つのチェックポイント(見届け・定着と習熟・全員参加・発問指示)を意識した授業改善がなされた。 ・多くの教科における乗り入れ授業により小学校の複式授業を解消することができ、個別指導に活かすことができた。また、それが小中の学習内容の系統性を活かした授業を展開することにもつながった。 ・外部組織を活用して研究授業を実施したり、僻地教育研究大会を開催したりしたことで、教師一人一人の課題解決と授業力アップにつながった。 ・グランドデザインを作成して、学校の取組を教師、保護者、地域に分かりやすく伝えることができた。 ・参観日、学校だより、HPの毎日更新等を通して情報を発信することができた。 ・学校行事と地域行事の融合や精選を今後も進めていきたい。 ・地域の各団体の協力体制を今後もしっかりと築きながら、スムーズな学校運営を進めていきたい。 ・今後の学校の課題(児童生徒数の確保等)についても、対策を話合っていく必要がある。 	

